

ときめき インタビュー



…プロフィール…

1990年8月21日、越谷市生まれ。1歳半からベビースイミング教室で水に親しむ。鷺後小学校、栄進中学校を経て、2006年、春日部共栄高校に入学。夏の高校総体200mバタフライで優勝。翌年の高校総体で2連覇を達成、国体の100mバタフライでも優勝した。今年2月の中国オープン(ブレ五輪)の優勝に続き、北京五輪代表選考会を兼ねた日本選手権200mバタフライでは2位に入り、北京五輪出場を決めた。さらに、6月のジャパンオープンでは2分07秒04の高校新記録で優勝を飾る。

オリンピック出場を逃した選手たちの「思い」も背負う

「尊敬する選手は北島康介さん。あこがれの人で、目標でもあるのは、中西悠子さんです」

その中西悠子選手といっしょに泳いだ4月19日の日本選手権水泳競技大会200mバタフライ決勝で、星奈津美さん(スウィン大教スイミングスクール所属)は、中西選手の新記録(2分06秒38)に次ぐ2分07秒28の高校新記録で2位に入り、北京オリンピック出場を決めました。

「昨年の夏から変わってきたのは、泳ぎにムダがなくなりました。1かきで進む距離が大きくなったので、50mで1かき分減りました」

有望な高校生スイマーがしのぎを削る中で、ただ1人、北京への切符を手にした星さん。

「北京には出られなかったバタフライの秋山夏希さんや、背泳ぎの酒井志穂さんたちの『思い』も背負って行きたいです」という言葉には、同じ夢を追いかける同志への優しさが込められているように感じました。

コーチたちの厳しい目が素質を見出し、育ててきた

星さんがプールに入る楽しさを知ったのは、1歳半のころ。

「2歳上の兄が通う水泳教室にわたしもついて行って見ていたんですけど、そのうち自分もやりたいと言いだして、ベビースイミングに入りました。ほかの子たちはお母さんの姿が見えなくなると泣いているのに、わたしは喜んでプールで遊んでいた、と母から聞きました」

そこで指導していたコーチは、早くから星さんの素質を見抜き、小学校1年で種目をバタフライにしほった指導を始めたそうです。

小学校高学年のとき、現在もスイミングスクールで指導を受けている豊田康宏さん(日本水泳連盟競泳強化コーチ)と出会い、以来、めきめきと頭角を現し、星さんの名前は越谷市内はもちろん、埼玉県下の水泳関係者に知られるようになっていきました。

「とにかく、がんばり屋ですよ」星さんの泳ぎをプールサイドで見守りながら、豊田コーチは苦楽を共にした愛弟子の成長に目を細めていました。

天性を磨く日々の努力

星さんの手は、スラッと伸びたきれいな指をしています。「カッパの手です(笑)」と広げた指の間には、確かに小さな水かきがありました?!日曜日以外は、毎日数回、泳ぐハードな練習を続けてきた「がんばり屋」の証です。

泳ぎと比べると、走ることはあまり好きではないそうですが、「家の近くの大吉調節池にはきれいなランニングコースがあるので、筋力トレーニングのため走っています」とのことです。

大切にしている言葉は「継続は力なり」

記憶がないほどの幼少時から泳ぎ続ける17歳の星さんの口からこの言葉を聞くと、なぜか新鮮な響きがありました。と同時に、積み重ねられた努力の厚みに頭が下がる思いです。

応援を支えに、北京へ!

インタビューの中で、星さんは何度も「感謝」や「ありがとう」という言葉を口にしました。ずっと応援してくれた家族への感謝。コーチへの感謝。水泳仲間への感謝。学校や地域の方への感謝。

「わたしを支えてくださるすべての方の応援を力に換えて、北京で精一杯頑張ります」

星さんは今、オリンピックに向けて最後の合宿に入り、豊田コーチからマンツーマンの指導を受けています。中学のころから試合の前に必ず越ヶ谷の久伊豆神社にお参りし、終わったら、お礼に行くのが恒例。今回もお参りしてから北京へ向うそうです。

地域の方や学校、家族の温かい応援を力に換えてオリンピックの晴れ舞台で精一杯頑張ります。

競泳女子200mバタフライ

北京オリンピック日本代表

星奈津美さん



泳ぐたびに好タイムを出して競泳界の注目を集めてきた高校生スイマーが、天性の才能と努力でつかんだオリンピック出場。

体力も人としての魅力も伸び盛りの星奈津美さんに、北京オリンピックへの意気込みなどをお聞きしました。

(撮影協力:スウィン大教スイミングスクール蓮田校)

北京オリンピック競技日程 (競泳女子200mバタフライ)

- ▷ 予選… 8月12日(火)
- ▷ 準決勝… 8月13日(水)
- ▷ 決勝… 8月14日(木)